

喜びを富士に告げよう！

特別号
富士市立吉原北中学校
令和7年9月

全国学力・学習状況調査特別号

全国学力・学習状況調査を4月17日に実施しました。本年度は、国語、数学、理科、生徒の学習・生活習慣などに対する質問、学校への質問を実施しました。この調査により本校の3年生の学力や生活習慣の特徴を様々な観点から把握することができました。今回のデータを教職員が日々の授業改善に生かしていくことはもちろんのこと、生徒1人1人が、自身の生活習慣について見つめ直すきっかけになればと思います。本調査が学校と家庭が協力してお子さんの成長をサポートするための一助となればと考えています。

全国学力・学習状況調査とは

全国学力・学習状況調査は、小学6年生と中学3年生を対象に行われています。

文部科学省や教育委員会が全国的な児童生徒の学力や学習状況を、全国的に把握・分析して教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることが目的です。学校には、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善などに役立てることが求められています。

この調査は、「教科に関する調査」と、生活習慣や学習環境に関する「質問紙調査」で構成されています。「教科に関する調査」では、「知識・技能、思考力・判断力・表現力等は、相互に関係し合いながら育成されるもの」という新しい学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎知識と活用力を一体的に問うように構成されています。

各教科の分析結果について

国語

吉原北中生は・・・

- ◎自身の考えを伝えるために、表現や構成を工夫することができます。
- ▼語彙の充実と書くことに課題が見られます。

国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的で言語的な文化と国語の特質に関する事項」について問題が14問ありました。

◎ 自身の考えを伝えるために、構成や表現を工夫することができる。

「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択する問題の正答率は77.5%と県平均(75.5%)・全国平均(73.4%)を上回りました。このことから、本校生徒は、論理の展開に注意して、話の構成を工夫する力がついていると考えられます。

また、発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫についてどのような助言をするか、自分の考えを書く問題の正答率は県平均を9%上回り、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができることがわかりました。

自分の考えをまとめる問題や、話の構成を工夫する問題の正答率が高いことは、授業でのグループ学習の効果と考えられます。特に課題解決に向かう際、文章表現や構成などについて仲間と追究し、互いの意見について考えていることが、このような結果につながったと考えられます。

▼ 語彙の充実と書くことに課題

漢字を適切に変換する問題の正答率は25.0%で、全国平均を10%下回りました。手紙の下書きにある誤った漢字を修正する問題では、無回答率が36.7%でした。また、事象や行為を表す語彙について適切な意味を選択する問題の正答率は全国平均並みという結果でした。

文章をもとに情報を整理したり、意味を推察したりする力はあるものの、語彙が不足していると考えられます。事実、生徒は柔軟な思考を活用して話したり書いたりしているものの、言葉遣いが遠回しになったり幼い印象を受けたりするケースが散見されます。生徒が考えを深めていくための語彙を身に付けていくように、授業づくりに取り組んでいきたいと考えています。御家庭でも時事ニュースなどを話題にいただき、新しい語彙と出会うきっかけを作っていただければ幸いです。

数 学

吉原北中生は・・・

◎「知識・技能」の定着が見られます。

▼「数学的に説明する力」に課題が見られます。

「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の4領域から15題が出題されました。全領域において、正答率が全国平均を上回りました。特に「図形」、「データの活用」については大きく上回っています。また、全体を通して「数学的な説明」を求められる問題の正答率は全国平均並みでした。

このことから、数学に関する基礎的・基本的な「知識・技能」が身に付いていることがうかがえます。また、無回答率はすべての問題で全国平均を下回っていることから、問題に対して粘り強く取り組みようとしていることがうかがえます。しかし、数学的に考察したり説明したりすることには課題が見られ、他の問題に比べて無回答率が高くなっています。

下の大問8は、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明できるかどうかを問う問題です。全国平均が38.0%に対して、本校の正答率は35.0%でした。また、この問題に対する無回答率は30.0%でした。この結果から、問題解決の方法を考察し、数学的に説明することに課題が見られます。普段の授業の中でも、問題解決の方法を粘り強く考えたり、仲間の考えを吟味したりする活動を通して、数学的に考察したり、説明したりする力を育てていきたいと思えます。

8 A駅の近くに住んでいる歩夢さんは、C駅とD駅の間にあるスタジアムによく行きます。

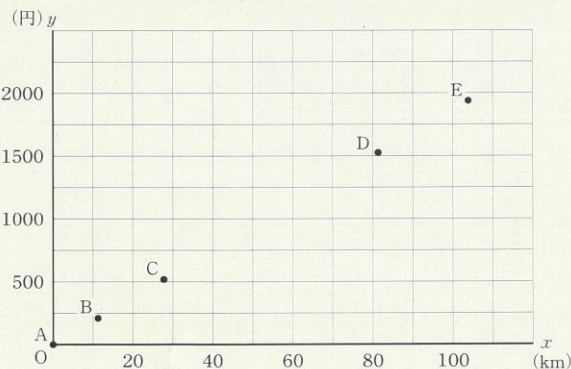
歩夢さんは、スタジアムの近くに新しい駅をつくる計画があることを知り、A駅から新しい駅までの運賃がいくらかになるのか気になりました。そこで、A駅からの走行距離と運賃をインターネットで調べ、次のような表にまとめました。

調べた結果

	A駅	B駅	C駅	D駅	E駅
A駅からの走行距離(km)	0.0	11.4	27.7	81.9	104.6
A駅からの運賃(円)	0	210	510	1520	1930

歩夢さんは、上の調べた結果を見て、A駅からの走行距離と運賃にはどのような関係があるかわかりにくいと感じました。そこで、調べた結果をもとに、A駅からの走行距離を x km、A駅からの運賃を y 円とし、コンピュータを使って下のようなグラフに表しました。このグラフの点Aから点Eまでの各点の x 座標と y 座標は、それぞれA駅からE駅までの各駅のA駅からの走行距離と運賃を表しています。

A駅からの走行距離と運賃のグラフ



(2) 歩夢さんがさらに調べると、新しい駅はA駅から60.0kmの地点につくられることがわかりました。そこで、A駅から新しい駅までの運賃がおおよそ何円になるかを予測することにしました。

A駅から新しい駅までの運賃を予測するために、前ページのA駅からの走行距離と運賃のグラフにおいて、原点にある点Aから点Eまでの点が一直線上にあるとして考えることにしました。

このとき、A駅から新しい駅までの運賃はおおよそ何円になるかを求める方法を説明しなさい。ただし、実際に運賃がおおよそ何円になるかを求める必要はありません。

正答率

本校 35.0%

静岡 39.8%

全国 38.0%

理 科

吉原北中生は・・・

◎身の回りの自然事象から生じた疑問やその疑問を解決するための課題の設定や振り返りを表現する力がついています。

▼知識の定着に課題が見られます。

理科では、「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」の4領域から22問出題されました。

◎身の回りの事象から生じた疑問や問題を解決する課題の設定や振り返りを表現する力がついています。

1 (2) 「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのか」という疑問を解決するための課題を記述する問題の正答率は 57.7%と県平均 (51.3%)・全国平均 (46.2%) を上回りました。このことから、本校生徒は、自然事象から課題設定する力がついていると考えられます。

また、1 (6) 「水道水と精製水に関する 2 人の発表から、探求における振り返りを記述する」という問題の正答率は 88.6%と県平均 (83.6%)・全国平均 (79.4%) を上回りました。このことから、本校生徒は、探求から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現する力がついていると考えられます。

このようなよい結果がでてきた要因として、授業における実験や観察において、「課題の設定→予想→実験・観察→考察・振り返り」の流れを生徒一人一人が意識して活動してきたからだと考えられます。特に振り返りを表現することについては、振り返りを書く前の考察に重点を置き、グループ学習や全体共有において、仲間の考えから自分の考えをさらに深める活動を行ってきた成果だと考えられます。

▼ 知識の定着に課題が見られます。

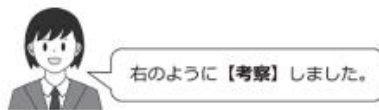
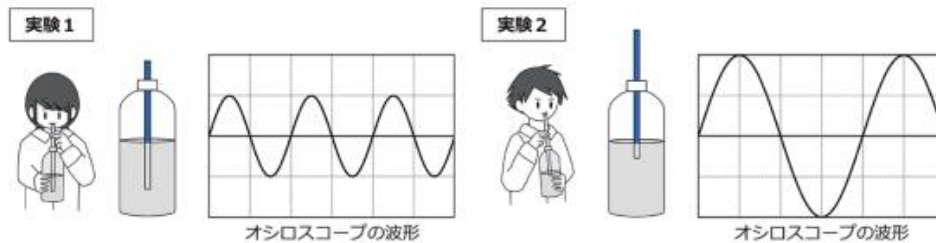
「エネルギー」、「粒子」、「生命」の知識に関する問題の正答率は全国平均を下回りました。

下の 2 (1) は、実験で得た考察をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する問題です。本校生徒の正答率は 18.8%と全国平均 (14.0%) を上回っていますが、正答率をさらに上げていくためにも、知識の定着が課題として挙げられます。この問題は、文中にある音を可視化した波形と「音の高さ＝振動数」という知識に着目すれば正答率が上がります。今後の授業において、基礎・基本の定着が図れるように授業改善をしていきます。

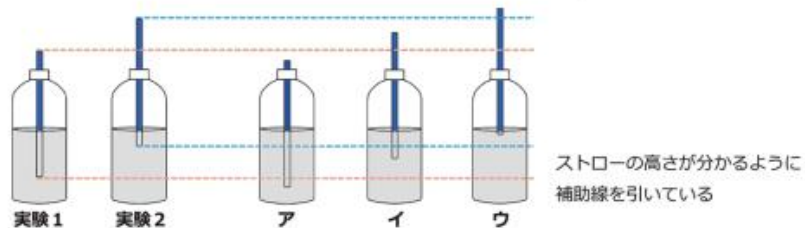
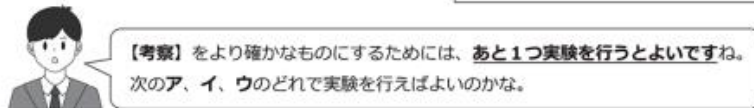
2 理科の授業で、ストローと水の入っているペットボトルで楽器をつくり、音について科学的に探究しています。
(1)、(2)の各問いに答えなさい。



【実験】「ストロー内の空気が入る長さ (■■■ の部分) 」を変えて実験を行ったときのオシロスコープの波形を観察しました。



【考察】
「ストロー内の空気が入る長さ (■■■ の部分) 」が、長くなるにつれて、音はだんだん低くなる。



(1) 下線部について、【考察】をより確かなものにするために1つ実験を追加するとしたら、上のア、イ、ウのうち、あなたはどの実験を選びますが、1つ選びなさい。

上のア、イ、ウのどの実験を選んでてもかまいません。

また、上で選んだ実験を行ったときに、オシロスコープの波形から何が分かればよいか、振動数という言葉を使って書きなさい。

本校の生徒の特徴

本校、全国（県）の数値に関しては、各質問項目における回答（あてはまる・どちらかといえばあてはまる）の結果です。また、表内の全国との差は、全国と本校を比較して、本校の数値が高いときはプラス、低いときはマイナスでそれぞれ表示しています。

<学校生活についてよいあらわれ>

回答数値：%

質問項目	本校	全国（県）	全国との差
①あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	95.1	84.3 (87.3)	+10.8
②人が困っているときは、進んで助けていますか	97.6	90.9 (91.8)	+6.7
③友達関係に満足していますか	97.6	91.4 (91.3)	+6.2
④学校に行くのは楽しいと思いますか	96.0	86.1 (87.7)	+9.9
⑤自分にはよいところがあると思いますか	94.3	86.2 (87.2)	+8.1
⑥先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	96.8	92.2 (93.5)	+4.6
⑦困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	82.1	73.2 (75.0)	+8.9
⑧将来の夢や目標を持っていますか	84.6	67.5 (69.0)	+17.1

8つの項目について全国平均よりも上回り、とてもよいあらわれです。①～④の項目については、クラス会議や行事等において、吉原北中校区めざす子供像の「自分も大切あなたも大切」のもと、多くの生徒が助け合ったり支え合ったりしながら学校生活に居心地のよさを実感していることがわかります。⑤～⑥の項目について、学校生活での仲間同士や先生との関わりを通して自己肯定感を実感していることも伺えます。⑦について、教育相談やストレスチェック、担任との交換ノートを通して、先生に不安や悩みを吐露できる良い関係であることも伺えます。⑧について、キャリア学習や教育相談を通して、夢や目標を抱いて学校生活を送っていることも伺えます。今後も生徒のよさをさらに伸ばすことができるよう、職員一同で生徒一人一人と向き合い、居心地のよい学校づくりをしていきます。

<学校生活について今後の課題>

回答数値：%

質問項目	本校	全国（県）	全国の差※
①普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	91.8	91.6 (92.5)	+0.2
②人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.9	96.6 (97.1)	-0.7

吉原北中校区小中一貫教育目標「自分らしく ともに 輝く」ために、今後特に力を入れていく課題について2つ挙げます。①について、さらに多くの生徒が幸福感を抱くことができるように、学校生活や行事の中で、生徒の思いに寄り添いながら認め、支え励ましていきます。②について、自己有用感がさらに高まるよう、助け合い、支え合いを大切に活動していきます。

<学習について>

回答数値：%

質問項目	本校	全国（県）	全国の差※
①授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	95.2	91.9 (92.9)	+3.3
②学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	88.6	84.7 (86.8)	+3.9
③授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができますか	82.9	74.8 (73.8)	+8.1
④学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	82.1	73.4 (72.5)	+8.7
⑤分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	82.2	77.5 (77.3)	+4.7

本校では、一昨年と昨年に市教育委員会の指定を受け、「特別支援教育の視点をもった授業づくりについて」の研究を行ってきました。授業づくりの土台である「安心感」を抱くことができる学級・居場所づくりに向けて、学校経営目標「居心地、学び心地の良い学校」を掲げています。7月に実施しました前期学校評価アンケートでも、「仲間と安心して過ごしている」については99.0%と昨年度の結果よりも上回り、目標を達成しています。そのため、①では、安心して自分の考えを仲間に伝え、協力しながら課題解決に取り組んでいると実感する生徒が多くいることがわかります。

②について、居心地のよい学級だからこそいろいろな考えが出ることで、考えを深めたり新たな気付きにたどり着いたりする生徒もいることがわかり、深い学びになっていることも伺えます。また、本年度の本校で取り組んでいる授業改善の一つとして行っている学習と実生活のつながりについて、一定の成果が出ていることが③から伺えます。

このような授業改善や生徒が考えたくなる学習課題の設定で、生徒が主体的に学習に取り組んでいることが④、⑤から伺えます。

今回の結果を受け、授業で「わかった」「できた」の学びの実感をさらに抱くことができるように、生徒自身が自分事として捉える学習課題の提示、自分と仲間の考えを比較して自分の考えを深めたり新たな考えに気付いたりすることができる授業づくりを教職員一同、研修を重ねて実践していきます。

また、ICT 機器であるタブレットパソコン内のドリルパークを活用し、基礎・基本の確実な定着を図ったり、ロイロノートで仲間の考えを比較したりして、学習理解と情報活用能力が向上するよう職員一同でタブレットパソコンを用いた授業づくりも推進していきます。

最後に

今回の結果から、北中生の「よさ・強み」や「課題」をきちんと理解したうえで、生徒自身が自ら輝くことができるように、私たち教職員は生徒たちを見守り、励まし支えています。具体的には授業や学校行事といった様々な活動の中で、生徒の居場所づくり、絆づくりを行うとともに、「わかった」「できた」を実感できる授業改善や生徒自らが決定できる自己決定の場の設定を行い、安心して学校生活を送れるようにしていきます。

今後も学校と御家庭がともに協力してお子様の成長を見守っていただけるよう、本校の教育活動への御支援と御協力をお願いいたします。

